

研究代表者	所属・職名 経済経営学類・経済学系 教授 氏 名 佐野孝治
研究課題	大規模災害からの復興戦略と諸アクターの役割に関する国際比較研究 International comparison study on the recovery strategies and the role of each actor in recovery process
成果の概要	<p>本プロジェクト研究は、日本、中国、タイ、アメリカ、ハイチにおける大規模災害からの復興戦略と諸アクターの役割に関する国際比較研究である。特に各国の大規模災害からの復興プロセスを実態調査に基づき明らかにするとともに、復興プロセスにおいて諸アクター（中央政府、地方自治体、国際機関、企業、市民、NGO、研究機関など）が復興戦略の策定や政策形成、さらに復興計画の実行にいかなる役割を果たしたのかを、各国の多様な社会経済システムを踏まえながら、国際比較分析を行った。</p> <p>第一に、大規模災害に見舞われた中国、タイ、アメリカ、ハイチなど各国の実態調査を行った。まず厳成男、藤本典嗣の両名は2008年の四川大地震を経験した四川省を調査し（2012年8月実施）、ペアリング支援や国家主導の復興プロセスについて、分析した（厳成男 [2012] 「中国における国家主導のコーディネーションと2008年四川大地震からの復興」『商学論集』）。次に、佐野孝治と厳成男は、2011年に50年に1度といわれる大洪水の被害を受けたタイを調査し（2012年9月実施）、復興にかかわって国際機関、政府機関、大学、市民など諸アクターが果たした役割について明らかにした（佐野孝治・他 [2013] 「タイにおける大洪水に対する諸アクターの役割」『地域創造』）。続いて、後藤康夫はアメリカのハリケーン被害支援の調査（2012年11月実施）とともにグローバルな市民運動についての研究を行った（後藤康夫・他編『いま福島で考える』青木書店）。さらに藤本典嗣、佐野孝治は2010年に大地震に見舞われたハイチ・ドミニカ共和国を訪問し（2013年1月実施）、被災後3年を経過しても依然として復興が進んでいない状況を調査した。</p> <p>最後に尹卿烈は、再生可能エネルギークラスター、スマートグリッドの先進地域である韓国を調査し、日韓比較を行った（尹卿烈 [2012] 「スマートグリッドにおける連携活動と事業開発に関する研究」『地域創造』）。</p> <p>第二に、東日本大震災・原発事故からの復興に関しては、うつくしまふくしま未来支援センター長の山川充夫を中心に研究を行い、情報を共有した。おもな業績に山川充夫 [2012] 「原発地域復興支援と地理学の役割」『地理』、同「エネルギー政策の転換と地域経済」『地理』、同「原発なきフクシマへ」『世界』などがある。</p> <p>第三に、2012年12月7日には、国際シンポジウム「大規模災害からの復興戦略と諸アクターの役割」を開催した。これは研究プロジェクトのメンバーによる国際共同研究の成果を社会に還元すると同時に、中国、タイなどにおける各国の大規模災害からの復興の経験を共有し、東北・福島の復興に役立てることを目的としたものである。タイにおける2011年の大洪水の際に、復興に携わったチュラロンコン大学と保健省の研究者は災害時における大学や政府機関の役割などについて報告した。また2008年の四川大地震については顧林生教授が復興の中国モデルについて報告した。さらにグローバルな視点から世界銀行の上席防災管理官の石渡幹夫氏が報告した。</p> <p>さらに福島における復興の実態と経験を世界に向けて積極的に発信する、という趣旨の下、研究組織のメンバーによる海外と国内の学会およびシンポジウムにおける報告も20回以上実施した。一例をあげれば、藤本典嗣はAAG Annual Meeting 2013（米国、ロスアンゼルス）で、Paper Sessionとして、The Fukushima Disasterを組み、“Regional Structure of Fukushima after the Great East Japan Earthquake”、“Fukushima problem and geographical concept for effective and wicked purpose: a divided region”という日本の口頭発表をお</p>

成果の概要	<p>こなった。</p> <p>今後、大規模災害からの復興に関する「災害復興学」の構築に向けて、国際比較を可能にするために理論的枠組みと研究内容の検討を行うとともに、東日本大震災からの復興に対し国際的な視点から貢献するべく、研究を進めていきたい。</p>
-------	---